Fukui Fine Arts Museum
福井県立美術館

2021

美術館だより

MUSEUM NEWS Vol.167

contents

〈展覧会紹介〉「再興第105回日本美術院展　福井展」 [2～3]
令和２年度　新収蔵作品紹介 [4～5]
〈イベント報告〉「風景画のはじまり―コローから印象派へ―」 [5]
〈イベント報告〉「永遠のアイドル・麗子にあいたい！教科書で見る巨匠たち ～ウッドワン美術館名品展～」 [6]
令和３年度　福井県立美術館ボランティア　新規会員募集 [7]
次回展覧会のお知らせ [8]
それゆけ！ブブ広報部隊　其の十四
美術館喫茶室ニホ特別メニューのお知らせ
お知らせ

表紙：手塚雄二《昇陽》（部分）

再興第105回

院展

2021
6.18金▸7.4日

【開館時間】会期中無休 ※6/18(金)は午前10時から
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【料金】一般・大学生 900円、高校生 500円、中小生 300円
(20名以上の団体は2割引)
※学生の方は学生証の提示が必要です　※未就学児は無料
※障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額

手塚雄二「昇陽」

日本画の“現在”と“これから”が、交錯する

福井ゆかりの岡倉天心が明治31年(1898)に創設した日本美術院の理念をもとに、横山大観らによって大正3年(1914)に再び開院された再興日本美術院。その公募展である「院展」は、近代の日本美術を牽引してきた作家たちが多くの話題作を発表した場であり、105回を迎えた今なお注目され続けています。福井では3年ぶりに開催する本展において、日本美術院同人の新作、受賞作品、福井県をはじめとした北陸在住、出身作家の入選作など総数80点を展観。伝統を受け継ぎ、新しい時代の日本画を生み出しつづける日本美術院の“今”をご覧いただきます。

浅埜水貴「白土の地」奨励賞

吉村佳洋「夜宴」日本美術院賞(大観賞)

福井につどいし、日本画の〝今〟

清水由朗「海流」

阪野智啓「赤備え」

窪井裕美「影絵あそび」

竹澤弘之「揺らぎ」

那波多目功一「奥入瀬の秋」

スペシャル・プログラム

◤手塚特別館長によるギャラリートーク

6/18(金)午後2時～3時
◇会場:展示室　※要観覧券・申込不要[先着20名程度]
◆講師:手塚 雄二氏(日本美術院同人・業務執行理事、東京藝術大学名誉教授、福井県立美術館特別館長)

◤院展作家によるギャラリートーク

◇会場:展示室　※要観覧券・申込不要[先着20名程度]
6/19(土)午前11時～12時
◆講師:荒木 恵信氏(日本美術院院友、金沢美術工芸大学准教授)
片山 開登氏(日本美術院研究会員、金沢美術工芸大学大学院)
6/26(土)午後2時～3時　◆講師:谷 善徳氏(日本美術院特待)
7/3(土)午後2時～3時　◆講師:竹澤 弘之氏(日本美術院院友、福井県出身)

◤講演会「日本画制作の裏側」

6/19(土)午後2時～3時
◇会場:美術館講堂　※要観覧券・申込不要[先着40名]
◆講師:荒木 恵信氏(日本美術院院友、金沢美術工芸大学准教授)
片山 開登氏(日本美術院研究会員、金沢美術工芸大学大学院)

◤美術館学芸員　トークサロン

6/20(日)午後5時～6時
◇会場:美術館喫茶室ニホ　※要申込[定員10名]
(お申込み、詳細は院展イベントHPをご覧ください)

院展イベントHP

◤ワークショップ「越前和紙でお花づくり」

6/20(日)①午前10時～、②午後1時～、③午後3時～
※参加費3,000円　※要申込[各回定員8名]
(お申込み、詳細はミュージアムショップHPをご覧ください)

ミュージアムショップHP

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、記載内容を変更する場合があります。またご来館の際は、マスク着用および手指消毒など感染防止にご協力ください。

令和２年度新収蔵作品紹介

令和２年度に新しく購入・寄贈・寄託を受けた作品から今回は出店久夫氏の作品４点をご紹介します。

HISAO DEMISE

出店 久夫

1945　福井県に生まれる
1966　京都市立日吉ヶ丘高等学校美術コース・西洋画科卒業
1975　スペイン国立アカデミー・シルクロ・ベシャス・アルテスに学ぶ
2020　福井県立美術館にて「福井発 アートを変革したシュルレアリストたち 出店久夫他」展が開催される

1「花の母子像」【購入】

2010年　硬質スタイロフォーム・ジェッソ・ゼラチンシルバープリント・調色剤・アクリル・写真染料・色鉛筆

深緑の空を背景に立つ着色されたマリア像や彫像などは、出店が本格的に絵画を学ぶため滞欧した先で撮ったものやスペインのお土産です。フォトコラージュなどの特殊な技法を用いて作られる画面は、濃密な幻想性が際立っています。特に中期以降の写真技法を高度に応用した作品群は、フォトシュルレアリスムと呼ぶに相応しい質感を持ちます。

2「コラージュ 2002－私風景山背Ⅱ」【寄贈】

2002年　ボンリューム・ゼラチンシルバープリント・手彩色・写真染料・色鉛筆

タイトルにあるコラージュとは画面に印刷物や写真の切り抜きなど、様々なものを貼り付け一部に加筆などをほどこして構成する絵画技法の一つ。

出店は、ストックされている膨大な素材をチェックして使用するものを選び、切り抜きを貼り合わせて再撮影や手仕事でのレタッチと着色をほどこし焼き込んだものをつなぎ合わせていく作業を繰り返していくと言います。こうしたアナログな制作過程は、不思議な風景が広がるモノクロームの世界であってもどこか臨場感をもって見るものに語りかけています。

3「骨相奇岩図」【寄贈】

2008年　硬質スタイロフォーム・ジェッソ・ゼラチンシルバープリント・調色剤・アクリル・写真染料・色鉛筆

本作は水平を高くとった左右対称および上下対称の回転した構図をとります。なかば万華鏡のように個々のイメージが散らばり不思議な世界が構築されており、所々に散見されるブレや動きのある効果はガラス玉を通して再撮影されています。その後、焼き込んだものを線対象に繋ぎ合わせコラージュを繰り返し制作しています。

《イベント報告》

風景画のはじまり
―コローから印象派へ―

2021 2/27(土)▸3/21(日)

展示場

当初は2020年4月に開催を予定していたものの、新型コロナウイルス感染拡大によりフランスからの作品輸送が困難となり中止となった本展覧会。関係各所の多大なる尽力のもと、約１年後に満を持して開催することができ、11,000人を超える方にご来館いただきました。アトリエから飛び出て、現在では当たり前になっている屋外での絵画制作の先駆者となったコローに始まり、田園風景を愛したバルビゾン派、空の刻一刻とした移り変わりを捉え続けたブーダンを経て、光や風といった自然現象の表現を模索した印象派まで。フランスの自然を旅する気分で、奥深い風景画史を辿りました。

1万人入館記念セレモニーの様子

《関連イベント》

◉NHKミュージアムシアター〈8Kで巡る世界の至宝〉

◉番組プロデューサーによるトークショー〈8Kで撮る世界の至宝「オルセー美術館」を中心に〉

［日時］令和3年2月28日（日）［参加人数］40名

◉美術館喫茶室ニホ 学芸員トークサロン

［日時］令和3年3月13日（土）［参加人数］12名

◉見どころ解説会

［日時］会期中土曜日　［参加人数］85名

◉ミュージアムコンサート「巨匠たちの絵画」フルート＆ハープ

［日時］令和3年3月7日（日）［参加人数］40名

◉フランス絵画と福井の食を楽しむ　特別解説会（内容を一部変更して開催）

［日時］令和3年3月6日（土）【シェ・サカイ】［参加人数］10名
［日時］令和3年3月14日（日）【ジャルダン】　［参加人数］16名

コンサート

4「コラージュ 銀河」【寄贈】

2016年　パネル・ジェッソ・アクリル・ゼラチンシルバープリント

出店の宇宙論と結びついたイメージが広がる本作では、一部に球体や円筒状の抽象化された形があらわれています。それらは拡大・縮小されたガスタンクや機械の部品、身近な日用品などから切り取られたモチーフです。加えて、裸の少年は再生の希望を託した幼少時の息子の姿だといいます。それら作者の目を引いた身近なもの達は、作品をみるものにどこかで見たような不思議な懐かしさを抱かせます。

《イベント報告》

教科書で見る巨匠たち
ウッドワン美術館名品展

2021
4/23(金)▶5/30(日)

永遠のアイドル
麗子にあいたい！

岸田劉生《毛糸肩掛せる麗子肖像》1920年

広島県廿日市市のウッドワン美術館から選りすぐりの日本近現代絵画を紹介した本展覧会。同時期に発令された福井県独自の緊急事態宣言などの影響もあり、客足が伸びなかったのは非常に残念ではありましたが、会期中２つほど新しい試みを行いました。

其ノ一　ミニブブ、大活躍

各章、および出品作品の３分の１程度の割合で当館のブタのキャラクター「ミニブブ」による独自目線の解説を加えました。おおむね好評であったこのミニブブ解説、こんなエピソードもあります。あるお子さんが長谷川利行の絵を気に入りずっと見ているので、お母さんが「好きなの？」と聞くと「このブタの解説を見て好きになった」と言ってくれたそう。今後とも親しみやすく分かりやすい展示を心掛けたいと思いました。

ミニブブの章解説パネル

其ノ二
初の試み「親子鑑賞デー」&美術館ボランティアさんによる「ちょこっと案内」始動！

階段に出現した光る行燈

本展では子育て世代のボランティアさんの発案で、おしゃべりしながら展覧会を楽しんでいただく「親子鑑賞デー」を土曜の朝2時間限定で開催しました。当日は「この日を楽しみにしていた」という赤ちゃん連れや親子連れが多く訪れ、会場では当館ボランティアが「ちょこっと案内」で作品の裏話なども披露。学芸員も展示室内を浮遊し、お客様と作品の話で盛り上がりました。

ボランティア作成の
会場でのマナーをつたえる動画

《関連イベント》

◉ウッドワン美術館学芸員による講演会「くらべて味わう近代日本の絵画」

［日時］令和3年4月24日(土) 13：00～14：30
［場所］美術館講堂
［講師］重藤嘉代氏
(ウッドワン美術館主任学芸員)
［参加人数］40名

◉見どころ解説会

［日時］会期中土日祝日 10:00～ 約15分間
※4月24日(土)、5月2日(日)、5月23日(日)を除く
［場所］美術館講堂、展示室
［参加人数］235名

◉親子鑑賞デー〈親子で美術館へ行こう！〉

［協力］福井県立美術館ボランティアの会
［日時］令和3年5月1日(土)、15日(土)、22日(土)、29日(土) 各日9:00～11:00
［場所］展示室　［参加人数］35名

◉出品作家を観る映画上映会

「モリのいる場所」
［日時］令和3年4月29日(木)
13：00～14：35
［場所］美術館講堂［参加人数］40名

「ゴッホ 最後の手紙」
［日時］令和3年5月3日(月･祝)
13：00～14：35
［場所］美術館講堂［参加人数］40名

◉美術館学芸員トークサロン

［日時］令和3年5月16日(日) 17：00～18：00
［場所］美術館喫茶室ニホ［講師］佐々木美帆（当館学芸員）［参加人数］10名

令和3年度 福井県立美術館ボランティア 新規会員募集

福井県立美術館では美術館に集まる情報の整理を担っていただく「新聞班」を募集する他、本年度より来館者と美術館をつなげる役割を担っていただく「ウエルカムスタッフ班」を新設・募集します。ご興味のある方はご応募いただきますようご案内します。

◆福井県立美術館ボランティアの会について

福井県立美術館ボランティアの会は1996(平成8)年に始まりました。発足当時の活動は、インフォメーションでの来館者対応、展覧会場での監視業務、図書や新聞情報の整理などでした。2000(平成12)年、2001(平成13)年の2年間にわたり解説ボランティア育成を目指した講座を開催し、2002(平成14)年の「開館25周年記念 近代日本画の巨匠と館蔵名品展」からボランティアによる解説サービスを始め、マスコミでも大きく取り上げられました(現在活動休止中)。

2015(平成27)年には発足20周年を迎え、記念事業を行うと同時に従来の活動を見直し、インフォメーションでの来館者対応、監視業務を廃止しました。2016(平成28)年から新たな体制で活動が行われています。

本年からは従来の活動に加え、特別企画展において見どころを簡単に案内する「ちょこっと案内」の試行を始めており、9月18日からの「岐阜県美術館名品展(仮称)」での本格デビューを目指しています。

ボランティアによる
「ちょこっと案内」

◆福井県立美術館ボランティアの会 受賞歴

2005年(平成17) 9月　「福井県民社会貢献活動奨励賞」受貨
2012年(平成24)12月　「平成二十四年度中日ボランティア賞」受賞

募集の内容

名　称	新聞班　※土曜日、もしくは水曜午前に活動できる方	募集人数	5名程度
活動内容	1. 新聞整理(美術関係の新聞記事を切り抜き、ファイリング) 2. ポスター、チラシの整理　3. ウエルカムスタッフ班の補助		

名　称	ウエルカムスタッフ班	募集人数	5名程度
活動内容	1. 特別展の見どころや作品についての「ちょこっと案内」 2. 所蔵品によるテーマ展や特別展の見どころをSNSで発信　3. 学校等の団体鑑賞サポート 4. キッズミュージアムのサポート　5. 新聞班等のレファレンス管理の補助		

1. 活動時の前提条件

・福井県が国の緊急事態宣言の対象地域でないこと
・福井県から独自の緊急事態宣言が出されている場合、休業養成の内容を踏まえるとともに、美術館の意向を確認すること

2. 募集条件

・活動開始時１８歳以上の県内在住者
・福井県立美術館ボランティアの活動方針に沿って、積極的に活動する意欲を持った方
・テーマ展や特別展でのギャラリートークや見どころ解説会、その他フォローアップ研修に参加可能な方
　※ギャラリートークや見どころ解説会、フォローアップ研修は主に土曜日に行います。
・ボランティア相互連絡のために個人のメールアドレス、携帯電話番号を開示いただける方
・原則無償の活動となります
・登録期間は令和4年3月31日までです(美術館の承認により登録更新も可能です)

3. 募集方法

申込締切…令和３年７月２日(当日消印有効)
HPに掲載の申込書にご記入いただき、メールもしくは郵送でお送りください。追って説明会の日時をお知らせします。
※郵送の場合封筒に「ボランティア応募用紙在中」と朱書。

4.申込先

〒910-0017 福井市文京3丁目16-1 福井県立美術館ボランティア担当
TEL.0776-25-0452　FAX.0776-25-0459　Mail:finearts@pref.fukui.lg.jp
※応募書類はお返ししませんのでご了承ください。　※ご記入いただいた個人情報は募集に関する連絡以外には使用しません。

次回展覧会のお知せ

「写真展 オードリー・スタイル 飾らない生き方」

[会期] 令和3年7月16日(金)～8月29日(日)

1929年にベルギーで生まれたオードリー・ヘプバーン(1929～1993)。バレリーナを夢見ていましたが、ハリウッド映画「ローマの休日」の王女に抜擢され、気品に満ちたプリンセスを可憐に演じ、スターの道を歩きはじめます。女優としてはもちろんのこと、くるぶし丈のサブリナパンツやフラットシューズ、シンプルなブラックドレスなど、オードリーは新しい時代をリードするファッションアイコンとなり、誰もが彼女の魅力に夢中になりました。晩年はユニセフ親善大使として厳しい環境に生きる子どもたちへの援助活動にも貢献しました。女優として、女性として、母として、ひとりの人間として、オードリーの信念のある生き方は、今も多くの人の共感を得ています。本展では、オードリー・ヘプバーンの飾らない生き方を著名な写真家の作品を中心に約130点の写真で展観します。

「ティファニーで朝食を」1961　mptvimages.com

絵・文　ささきみほ

再興第105回 院展
スペシャルメニュー

「サイコウインテンパフェ」

院展の展覧会特別メニューは、少し落ち着いた大人なパフェを。幸せな甘さの黒蜜アイスや濃厚な抹茶アイスは、もちろん自家製。白玉や豆類、黒ごまときな粉のクリームなどなど、和風テイストをバラエティ豊かに盛り込みました。

美術館喫茶室 ニホ

〔入り口〕福井県立美術館正面左手
〔営業時間〕9:00～19:00
〔定休日〕月曜日
〔電話番号〕0776-43-0310
＊フリーWi-Fi
＊美術館が休館でも定休日以外は営業
＊InstagramやFacebookは「美術館喫茶室ニホ」で検索

お知らせ

◎2021年7月の休館日について

館内メンテナンス、展示替え等のため、下記の日程は休館とさせていただきますのでご了承ください。
7月5日(月)～15日(木)

美術館のHPはこちら▶

美術館だより第167号

本誌は再生紙を使用しています。

編集／発行：福井県立美術館　〒910-0017 福井市文京3丁目16-1　tel.0776-25-0452　印刷：株式会社マツシタ　発行日：令和3年6月18日　21.06.20220